

初任者研修

研修所で行う研修
(第6回)

リフレクション通信

兵庫県立教育研修所

第6回は、小学校は外国語科と理科の授業づくりの講義・演習等を実施しました。外国語科ではデジタル教科書の効果的な活用について具体的に検討したり、理科の実習では顕微鏡で微生物を観察し、Jamboardで共有したりオリジナルの図鑑として記録に残したりする方法について体験的に授業づくりを検討したりしました。

中学校では、各教科の授業づくりの演習は最後となるため、これまでの学びを踏まえて各領域の授業づくりについて具体的に検討しました。

小学校

【外国語科授業づくり】

○研修に向けて

- どのように指導していけばよいのかについてのイメージがありません。外国語は自分も苦手だし、発音にも自信がないのでCD等を活用した学習がよいとも思いますが、全て頼ってしまうこともできないので不安に思っています。少しでも知識を身に付けたいと思っています。
- 3年生や4年生での外国語活動については、自分自身の大学での学びも生かしてゲームなども積極的に取り入れながら授業をなんとか行っています。しかし、5・6年生で教科として教えたり成績をつけたりすることに対してまだ経験がなく、不安があるので、これから学んでいきたいと考えています。
- 子どもが英語をたくさん使えるような授業をつくるための方法を知りたいです。英語力は実際に話したり聞いたりすることで向上すると思うので、教員の説明をできるだけ減らして授業を進めていく方法について学びたいと思っています。

○研修の振り返り

- 伝えようとする気持ちが大切であることがわかりました。そのために、必要な知識を身に付けさせたり、環境をつくってあげたりすることの重要性がわかりました。また、楽しく学んでいくためにデジタル教科書の様々な機能を知ることができました。
- 大学で中学英語について少し学んだので、そのことともつなげながら受講しました。各学年、系統的に身に付けたい力について改めて知ることができたのでよかったです。また、2分間英語で喋ってみるといった言語活動を通して、学習指導要領に記された「言語活動」について子どもたちが目的意識を持って活動することが安心感にも

意欲にもつながると実感しました。演習では、実際に一つの単元を見ていくことで、他の教科同様にねらいや活動の最後の子どもの姿を考えることで授業をつくっていくことができるということに気付くことができました。外国語担当なので、今後少しずつでも外国語が自分にとっての強みになればと思いました。



- 英語の授業はチャンツや歌、体を動かして行う活動など、楽しいものがたくさんありますが、どの活動を取り入れる際にも、何を目的にして子どもにさせるのかについて、明確にして活動を設定したいと思いました。また、練習と言語活動を上手く組み合わせ、子どもの学習に有効な方法で学びを提供したいと思いました。

【理科授業づくり】

○研修に向けて

- 前回の理科の研修で、考察するための手立ての重要性を学習しました。様々な分野において、どのような問いかけをすることで子どもたちがより考察するのかについて学びたいです。
- 理科の授業で、子どもたちに科学的な見方・考え方を付けさせるにはどのような学習が良いのかについて理解を深めたいです。実験を行うことを通して、子どもの立場と先生の立場の両方を経験し、より深い理解につながる研修にしたいと考えています。
- 理科の楽しさを感じながら、実験を進めていくためには具体的にどのようなものに注意が必要なのかについて学びたいです。また、理科の実験でどういうところにポイントにおいて、予想を立てさせたり、結果が思い通りにならない時、どのような声かけをし、考察をどのように書かせたりするのかについても学びたいです。

○研修の振り返り

- 今回の研修では、めざす子どもの姿から逆算的に考えて、発問や活動を定めることが重要だと思いました。そうすることで、発問や活動に意図を持たせることにつながると改めて理解しました。また、実験を通しての学びは楽しいものである一方で、目的を見失いやすいことや、危険があることから、十分に指導した上で実験をすることが大切であると感じました。学習指導要領に基づいて必要な知識・技能を子どもたちに身に付けさせることを意識して実験を行いたいです。
- 顕微鏡の使い方を実習で学びました。使い方を忘れていたことが多くあり、初めは自信がありませんでしたが、使っているうちにステージとレンズの距離を一番近くしてから始めることなど、思い出すことができました。学習指導要領の中にも顕微鏡を正しく活用することが明記されているので、今日の実習を今後の理科の授業でも生かしていきたいです。また、様々な生き物の観察を通して得た驚きや、感動を子ども達にも伝えられるよう、ICTなども活用して、発見を共有できる授業を考えたいと思いました。授業づくりでは、考察で書かせたいことに注目し、その考察につながるような予想の手立て、実験の手立てを考えました。比較することの大切さに注目していきたいです。



- めざす子どもの姿を設定してから、考察でどのように書かせたいかを決めたり、どのような予想を子どもたちがするかを考えるという授業の作り方がわかりました。また、導入でも、班の人と考えてみると、いろいろな案が挙がって実際にやってみてみたいと思えたので授業づくりで悩んだ時は周りの人に相談したいと思います。顕微鏡の使い方やワークシートのまとめ方がわかりました。顕微鏡の写真を撮る難しさも実際に使ってみてよく分かったので、工夫したいと思いました。

中学校

【国語科】

○研修に向けて

- 普段の学習の中で、話し合いや意見の共有は活動として行っていますが、例えば意図を明確にした建設的な話し合いができるような手立てができていないため、話すことの学習が行えるような工夫を学びたいです。

○研修の振り返り

- 敬老会に向けて、出し物を何にするかを決める合意形成に向けた話し合い活動を行いました。一緒に体を動かす・音楽を聞かせる・プレゼントを贈るというそれぞれの意見を持った3つの生徒グループと司会の話し合い活動でした。話し合い活動は2回あって、テーマを与えられてからすぐと、1回話し合いが終わった後に同じグループで良いところ、悪いところを話し合った後からのパターンで行われました。1回目よりも2回目に話し合った方が雰囲気も内容もはるかに良かったです。そこで、良くなった手立てを考えると、司会が生徒を話し合わせる前に否定的な発言をしないことや時間制限を設けることなどの指示を出していたことがでした。授業をしていて指示不足にならないように子どもたちに明確に指示を出すことは大切だと思いました。今後も子どもたちに発想を促せるように授業の最初にめあてを示し、活動の指示を適切に出すことを意識していきたいです。

【社会科】

○研修に向けて

- 我々が日々生活する社会とのつながりが強い分野である公民において、多面的・多角的に考察したり、追究することは生徒にとってもと興味・関心が持てると思います。なるべく時事内容なども利用しながら、生徒自身が疑問を持ち、課題を解決しようとする授業について学びたいです。

○研修の振り返り

- 「日本の人口」について、主権者教育の観点を持ちつつグループワークを行いました。課題を追究させ、正解が一つに定まらない問いを立てることに苦戦しました。労働や教育、移民問題など、切り口がたくさんある分、最終的にめざす生徒像がぶれてしまうことがありました。自分の中で軸を明確にして、問いは変化しても、生徒像はぶれないように授業をつくっていききたいです。

【数学科】

○研修に向けて

- データの活用の授業について、さまざまなデータの特徴を用いて説明をする活動を取り入れてきました。データを整理して特徴を調べることに苦手意識のある生徒に対して、どのような教材を用いて授業を展開すればよいかを学びたいです。

○研修の振り返り

- 今回、初めてPPDACサイクルを知りました。データの活用の単元は、日常とつなげやすく、生徒から出る疑問を生かすチャンスであると思います。今回の講義のように、身の回りのことをいかにして分析して疑問を解決するかのサイクルをイメージすることで、箱ひげ図などの導入も引き込みやすくなるのが分かり、生かしたいと思いました。しかし、班で話し合う中で、発問をどうするのが難しかったです。



【理科】

○研修に向けて

- 実際に行っている授業と研修で学んだ授業では違いがあり、吸収すべきことが多くあります。その中でも実験や考察は不安な点が多くあるため、1つずつ丁寧に考えることができている。引き続き研修で学んだことをできる限り早く取り入れて実践していきたいと思います。

○研修の振り返り

- 全国学力・学習状況調査の結果からも、普段の授業から考察をすることの重要性が分かりました。予想を立てて、それを踏まえて考察する必要がありますが、教科書の丸暗記の生徒が出ないように、実験そのものを教科書のそのまま行わない工夫が必要だと感じました。教科書の実験も大事なので、授業時数を考えてしっかり計画を立てることが必要ですが、なかなか難しいと思いました。理科の見方・考え方を働かせた考察をさせるためにどう発問するか、教科書に載っているものだとあまり思考できないなど班の中でも話があり、考察場面での発問の重要性を感じました。

【音楽科】

○研修に向けて

- 歌唱や器楽に苦手意識がある生徒も、創作活動では意欲的に取り組む姿が見られます。すべての生徒がより積極的に参加できる指導方法を学びたいです。

○研修の振り返り

- 創作活動において、最も大切なことは表現しやすい音楽室づくり(雰囲気づくり)をすることであり、生徒が何度も試行錯誤する時間を設けていきたいです。創作活動に集中して取り組ませるためには、生徒の考える時間を十分確保することが大切なので、まずはソングメーカーに慣れさせることから始めていきたいです。実際に、中学生がどんな工夫をするのかを、トライやる・ウィークで研修所に来ていた生徒から知ることができてよかったです。生徒が考えやすいような声かけや手立てを考えた上でしっかり準備し、授業実践に繋げていきたいです。

【美術科】

○研修に向けて

- ・美術は絵画だけでなく、立体作品や工芸作品も多く、多面的で造形的な視点がかなり重要です。中学生には少し難しいような作品の視点なども、こちら側が対話を工夫し伝えることで、学習がより深まると、日々授業をしながら感じています。しかし実際、生徒にうまく伝わっているかはわからず、手探り状態で授業を行っています。

○研修の振り返り

- ・鑑賞の授業を部分と全体の見方で考え、構成しました。質問に答えた生徒一人に対して追求して質問し過ぎず、他の生徒にも話を聞き、対話を広げることに注意しなければならないこと、焦らずに生徒たちが注目したところを全体で深めてみると、生徒も作品に興味を持ち、主体的に楽しんで取り組める鑑賞の授業になるのだなと改めて感じました。

【保健体育科】

○研修に向けて

- ・球技はどの型もボールを持っている人とボールを持っていない人の動きがあります。今回はボールゲーム型の実技を通して、特にボールを持っていない人の動きをどのように学ぶのかを議論していきたいです。

○研修の振り返り

- ・今回の授業はボールゲーム分野の授業デザインについてでしたが、自分にとっては、生徒との関わり方を学べた授業でした。講師の先生の声かけ、発問がとても参考になり、授業の雰囲気を感じられたことがよかったです。また、先生の話の中で「今の体育は運動量の確保も大事だけど、単元を通して、運動4割、考える6割だ」と言われていたのは驚きました。生徒にどうしてその動きが必要か、どう動くとういかに考えさせる授業をめざして、また、安全で楽しいと思える授業のデザイン、振る舞いをしていこうと思いました。

【技術・家庭科(技術分野)】

○研修に向けて

- ・情報の技術の分野では、導入でアルゴリズムやドリトルを用い、生徒にはゲーム感覚で取り組ませることができました。今回の研修では、授業の先生方の導入の仕方を学習できると思いますので、多くのことを学びたいです。

○研修の振り返り

- ・情報化の技術での各学校での実践発表を行いました。大変参考になりました。これまで自分が様々な実践に取り組んできましたが、これまでにない実践が多くありました。今後、更に自分の授業力を高めていけるようチャレンジしていきたいと感じました。また、情報の技術にはどんな技術があり、どのように役立っているのかを考えさせることで、生徒の問題解決する活動が活発になることが分かりました。様々な教材を知ることで、今後の授業づくりに生かしていきたいと思いました。

【技術・家庭科(家庭分野)】

○研修に向けて

- ・家族・家庭生活の幼児の内容についてはこれまで授業を行いました。しかし幼児についての知識が私自身に不足していて、充実した授業をつくる上で至らない点が多くありました。おおまかな家族について、家庭についてということについての学習はできましたが、深いところまで振り返ったり生活とつなぎ合わせて課題を検討したりするなどは、プライバシーなどのこともあると思います、なかなか踏み込むことができませんでした。幼児の学習では、課題としておもちゃ作りを出しました。縫うということ必須にしたため裁縫の学習にも繋がりました。研修を通して、幼児以外の家族・家庭生活の指導について学びたいです。

○研修の振り返り

- ・赤ちゃんや妊婦体験など、やってみたいことは色々あったけど手段が分からなかったのも、保健センターなどで貸し出しがあるというのはとても役立つ情報でした。また、参観日の時や子育て中の先生から話を聞くというのは自分の発想の中にはなかったのも、なるほどと思いました。まだまだ自分の経験だけでは語ることの難しい分野なので、使える物、人に協力いただきながら授業をつくりたいです。

【外国語科】

○研修に向けて

- ・先日、1年生で行った自己紹介の発表の授業は、書く、読む、話す、聞く、と4技能を使うことができた活動になりました。生徒たちはクラスメイトの自己紹介を聞きながら誕生日の聞き取りが難しいことがわかり、改めて発音の大切さに気付くことができていました。また、自己紹介から分かったことを書き出していくことで視覚的に自分の手でたくさんの情報が集まっていくのを見て自信を持った様子でした。今回の研修を通して各学年でどのような活動ができるかヒントが手に入ると嬉しく思います。

○研修の振り返り

- ・他の先生方のスモールトークの動画を見せていただき、話が盛り上がっている生徒たちの姿には驚かされました。教員自身もスモールトークのペアに入ったり、スローラーナーのサポートをしたりして、英語を話す時間をしっかりと確保したいと思いました。またインタビューの活動は楽しくできましたが、実際の教室ではいろいろな課題もあります。何もせず参加できない生徒、日本語しか使わない生徒、教室の片隅で溜まってしまう生徒等、全員が楽しく参加できるようなレベル、内容の課題を用意することも大事であると感じました。また教員が率先して参加し、ミスしてもよいのだと思える雰囲気を出していきたいと思いました。

【道徳科授業づくり③】

○研修に向けて

- 生徒が綺麗な答えを言いがちです。生徒の心を揺さぶりながら、深く考えていこうとすればするほど、生徒たちが道徳嫌いになっていくような気がします。まだまだ、自分の気持ちを発現する気恥ずかしさが生徒の中にあるので、それをうまく取り払っていける発問の仕方を身に付けていきたいです。
- 道徳の授業の回数は重ねていますが、教材を使って学ばせたいことを単に学ばせているという授業しかできておらず、自分事として考えさせる機会や発問が欠けているように感じます。それでは皆ありきたりな感想しか書けず、評価もしづらいです。そのため、生徒が自分事として考えられるような授業のつくり方、また生徒の記述や発表からの具体的な評価の付け方について学びたいです。

○研修の振り返り

- ねらいに基づいた評価の視点を定めることで、生徒たちが書いていることの本当の意味が分かりやすくなると思えました。そのためには、その読み物教材で特に考えてほしいことを理解しておくための教材研究が必要だと思えます。生徒の気持ちは時間が経つと変わってしまいがちだから、その瞬間の気持ちを大切に受け止めて、返してあげたいと思えました。
- 道徳の具体的な評価として、大きく二つの視点を学びました。それは、自分自身との関わりで考えているか、多面的・多角的な見方へと発展しているかです。自分事として捉えているかは常日頃から意識していますが、多面的・多角的に見れているかはあまり意識したことがなかったです。多面的・多角的な見方をするためには授業の中でさまざまな見方を拾うことが大切であると思えます。ですから、ペアワークの工夫や指名の工夫も必要であると思えました。また、朱書きについても、共感することや心の顕在化・言語化、生徒の記述を拾いそこに加えてこれからのことを書くなどさまざまな意見を頂いたので、どう書くのがよいのか、生徒に贈る言葉として考えながら実践していきたいです。